

# フジコナカイガラムシ発生予想および防除の目安

令和8年6月19日

佐渡農業普及指導センター羽茂分室

## 1 フジコナカイガラムシの基本的な生態

- (1) 雌成虫は体長 2.5～4.0 mm で楕円形。体色は暗褐色から紫褐色で、背面は全体に白色粉状のろう質物で覆われている。雄成虫は翅の開張が約 1mm の蚊のような虫。卵は黄褐色のやや長い楕円形で、白い綿状の卵のうに包まれている。幼虫は 1mm 程度の大きさで雌は 3 齢を経て成虫となる。成長するにつれろうが増え、薬剤が効きづらくなるため、ろうの少ない**若齢幼虫期が防除適期**となる。
- (2) 被害は排泄物に発生するかび「すす病」による果実の汚損と「火膨れ症」と呼ばれる着色異常がある。**第 1 世代幼虫が 6 月下旬頃発生する**。第 2 世代幼虫のピークは 8 月ごろ、第 3 世代幼虫は 9 月ごろとなる（その年の温度によって時期は前後する）。

## 2 R8 6/19 時点での防除適期予想

各発生開始予想	羽茂本郷 (標高 21m 地点)	羽茂上山田 (標高 122m 地点)
卵	6/15	6/15
1 齢幼虫	6/25	6/25
2 齢幼虫	7/07	7/07
3 齢幼虫	7/14	7/14
<b>予想防除適期</b>	<b>6/25～7/9</b>	<b>6/25～7/9</b>

- ・調査地点における予想日のため、環境が異なる場所においてはずれがあると考えられるので、自身の圃場の状況を見て散布時期を調整願います。また、今後の気象次第で発生が前後することがあるため注意願います。
- ・予想防除適期の間の初めと終わりでの 2 回防除ができるとより効果的です。
- ・カイガラムシ防除は落葉病対策とあわせて間隔をあげないように撒くと効果的です。
- ・作業の際は事故に注意してください。

何か不明点や心配なことがある場合には普及指導センター羽茂分室または JA 佐渡各事業所までお問い合わせください

# 令和8年のフジコナカイガラムシの発生状況と

## 自宅でできる発生状況の把握方法について

### 現在の発生状況

現在フジコナカイガラムシは、フェロモントラップで捕まっている数が昨年よりも多く、被害が大きかったR6年並みです。そのため今年は、園地によっては発生が多くなる場所があると考えられます。そのため、以前に被害が多かった園地ではなるべく適期防除をお願いいたします（別紙参照）。

### 自宅でできる発生状況の把握方法

フジコナカイガラムシのふ化時期は、地域やほ場によって若干異なります。そのため、各ほ場内の卵のふ化状況を確認して防除適期を把握することが重要です。

#### 【ふ化状況確認方法】

(1) ちょうど今ごろ卵のうが多く産み付けられている時期になります（R8は6/15~6/24）、前年発生が多かった樹の剪定傷跡や粗皮の隙間、果実のへたの隙間から、つまようじなど先のとがった細いもので卵のうを2から3個採取します。卵のうはカビなどの菌糸によく似たオレンジ色のつぶがある白くふわふわな0.5cmくらいの塊になります（写真1）、つついてみてオレンジ色~茶色の塊が出てきたら可能性が高いです。木の上でアリが多いところを探すと見つかりやすいです。

(2) 卵のうをシャーレ等の容器の中心におき、容器の縁にワセリンなど（軟膏やハンドクリームでも可）を塗り、容器を直射日光が当たらない屋外（納屋等）に置き、毎日ふ化状況を確認します（写真2：白いものは市販の軟膏）。

(3) 卵のうからふ化した幼虫がワセリンなどに多数付着し（オレンジ色の約0.5mmの小さな点々が付く）、歩行している幼虫も多く見られるときが、幼虫発生時期です。肉眼での確認は難しいのでルーペなどで確認することがおすすめです。

(4) 卵のうを処理する場合は、土に埋める、丁寧に指などですりつぶすなどの方法がおすすめです。踏みつけると卵が小さく、靴に付着して生息域を広げてしまう可能性がありますのでご注意ください。



写真1 フジコナカイガラムシ卵の拡大写真



写真2 シャーレに置いた卵のう（綿棒の先が1cm）